

成果の説明書

(氏名) 関根 雅則	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究面】</p> <p>①ここ数年、「差別化のタイプ」と「イノベーションのジレンマ」に関わる研究を行ってきた。その際、「漸進的イノベーションは垂直的多角化、破壊的イノベーションは水平的差別化」という見解の下、事例研究等を行ってきた。ただし、昨年度の研究において、漸進的イノベーションと破壊的イノベーションの明確な区別が困難であることや水平的差別化であっても破壊的イノベーションとは呼べないケースがあることが判明した。そこで、今年度は、各用語の概念を改めて整理することに加え、差別化やイノベーションの具体的事例に多数あたった。結論としては（残念だが）、「漸進的イノベーションは垂直的多角化、破壊的イノベーションは水平的差別化」とは必ずしも言い切れないことがわかった。ただし、全く間違った見解ともいえない。現在、今後の研究をどうするか検討中である。</p> <p>②「わが国におけるこれまでのベンチャービジネス・ブーム」に関わる研究を行った。現在、第4次ブームであるといわれているが、それが第3次ブームまでと、時代背景、政府の支援環境、主な動向や成果、リーディング産業等の点でどのように違うのかを検討し表化した。今のところ一覧表として各項目をまとめた段階であるが、ブームごとに様相が大きく異なる。詳細な内容については今後検討していきたい。</p> <p>【教育面】</p> <p>◆学部講義</p> <p>学部の講義としては「イノベーション論」および「経営戦略論」、「戦略的経営論」を担当した。各講義とも理論ではあるが、実践的な側面も重要である。そこで、毎年のことではあるが、実際の企業家によるイノベーション事例であるとか、企業による経営戦略事例を多用し、学生が身近なものとしてイノベーションないし経営戦略を理解できるように心がけた。</p> <p>◆学部ゼミ</p> <p>2年次：関根ゼミの専門は経営戦略やイノベーションであるが、それらを理解するための前提として「経営学の基礎」について学んだ。</p> <p>3年次：理論を学ぶために経営戦略の専門書、実践を理解するためにビジネス専門誌を輪読した。</p> <p>4年次：学生が自分独自の仮説に立脚した卒業論文を執筆できるようにするため、中間報告を1人3回行ってもらい、段階的に論文が精緻化されるよう指導した。</p> <p>◆大学院講義</p> <p>大学院では、前期「経営戦略研究」、後期「経営戦略特論」を担当した。前期の履修者は社会人1名と留学生1名、後期の履修者は社会人3名と留学生2名であった。両講義とも、あえて経営戦略の理論に重点を置いて検討したが、特に実践を知る社会人にとっては理論的なフレームワークが新鮮だったようである。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>【学内での活動】</p> <p>キャリア支援センター長を務めた。</p> <p>【学外での活動】</p> <p>①JA 栃木中央会からの依頼により、「職員資格認証研修会（特級）」において、「経営戦略論」の講義を行った。</p> <p>②JA 栃木中央会からの依頼により、「中核人材育成研修会」において、「経営戦略（基</p>	

礎理論)」および「イノベーション（基礎理論）」というテーマで講義した。

③JA 群馬中央会からの依頼により、「戦略型中核人材育成研修会」において、「経営戦略の基礎理論」というテーマで講義した。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、来年度以降も差別化とイノベーションの関係について研究を続けるか検討中である。

教育面では、今一度学生のニーズをくみ取り、双方向的な学習ができるように心がけたい。

その他については、キャリア支援センター長の任期があと一年あるので、その役割をしっかりと果たしていきたい。